

ナガイモにおけるコガネムシ類の発消長

1 情報・成果の内容

(1) 背景・目的

鳥取県中部のナガイモほ場において、収穫芋にコガネムシ類幼虫の食害が散見されている。コガネムシ類の防除を考える上で、発消長等の把握が必要であるが、2006年以降確認していない。そこで、防除時期の指標とするため、主要な加害種と考えられる3種のコガネムシ類成虫の発消長について調査を行った。

(2) 情報・成果の要約

- 1) ドウガネブイブイとヒメコガネの誘殺数を比較すると、ヒメコガネの誘殺数が多かった(図1)。
- 2) 3年間の誘殺数の平均より、ドウガネブイブイは2004~2006年に比べ誘殺数が減少していた。また、発生時期は以前と変化はなかったが、発生ピークがヒメコガネ、ドウガネブイブイともにやや前進していた(図2)。

2 試験成果の概要

(1) コガネムシ類3種の発消長のフェロモントラップ調査(2020-2022年)

園芸試験場西園ほ場内にアオドウガネ、ドウガネブイブイ、ヒメコガネのフェロモントラップを5月から10月にかけて設置し、週1回誘殺数を調査した。フェロモントラップ調査の結果、アオドウガネの総誘殺数は21~37頭と最も少なく発消長に傾向は見られなかった。ドウガネブイブイの総誘殺数は88~297頭であり、5月中旬頃から10月上旬の間飛来が確認され、誘殺のピークは6月上旬から下旬であった。また、ヒメコガネの総誘殺数は732~989頭であり、6月中旬から10月下旬にかけて飛来が確認された。誘殺数のピークは7月下旬~8月中旬であった。(図1)

(2) コガネムシ類の発消長の比較(2020-2022年、2004-2006年)

ヒメコガネの誘殺数に差は見られなかったが、ドウガネブイブイの2020-2022年の誘殺数の平均値は2004-2006年調査時に比べ、減少していた。また、コガネムシ類の発生時期は以前と変わらなかったが、発生ピークがヒメコガネ、ドウガネブイブイともにやや前進していた。(図2)

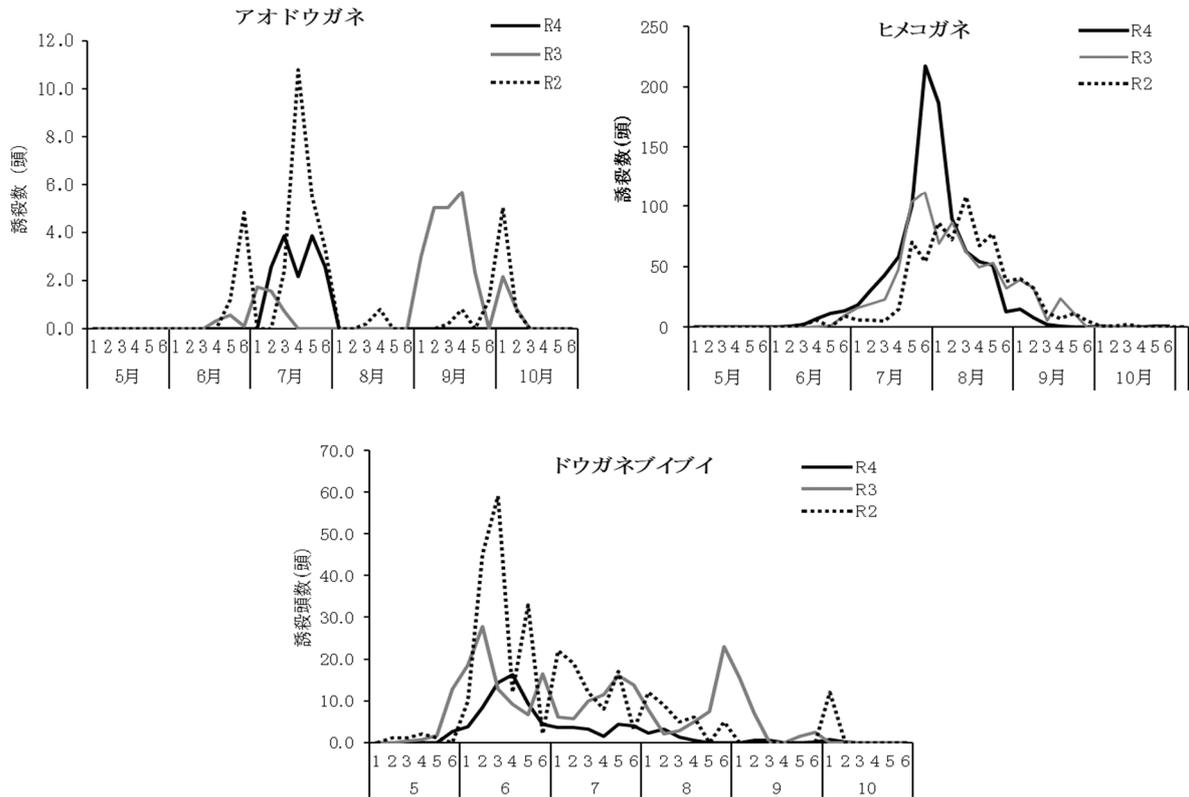


図1 3年間のコガネムシ類の発生消長の推移 (2020-2022年)

設置日：R2年5月1日～10月31日、R3年4月28日～11月5日、R4年4月26日～11月2日
 園芸試験場西園ほ場にフェロモントラップを設置し、誘殺数を調査した。
 対象コガネムシ類：アオドウガネ、ヒメコガネ、ドウガネブイブイ
 供試フェロモン：アオドウガネ性フェロモン剤、ヒメコガネ性フェロモンおよび食物誘引物質、
 ドウガネブイブイ性フェロモンおよびおよび食物誘引物質

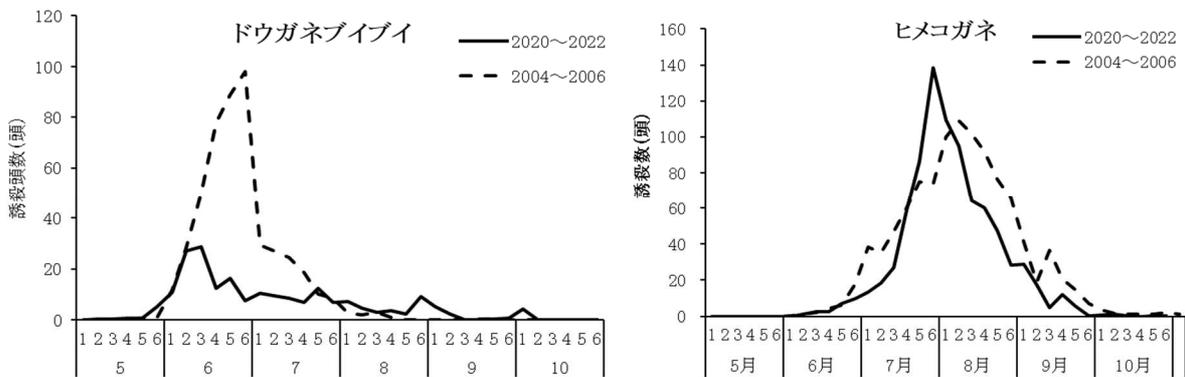


図2 コガネムシ類誘殺数の比較

調査期間：5月1日～10月31日 (2004, 2005, 2006, 2020, 2021, 2022)
 園芸試験場西園ほ場にフェロモントラップを設置し、誘殺数を調査した。
 対象コガネムシ類：ヒメコガネ、ドウガネブイブイ
 供試フェロモン：ヒメコガネ性フェロモンおよび食物誘引物質、
 ドウガネブイブイ性フェロモンおよびおよび食物誘引物質

3 試験担当者

環境研究室 研究員 鈴木 祐
 研究員 松村和洋*
 室長 中田 健**
 室長 米村善栄

*：現 農業試験場水田高度利用研究室研究員

**：現 農業振興局経営支援課農業普及推進室専技主幹